

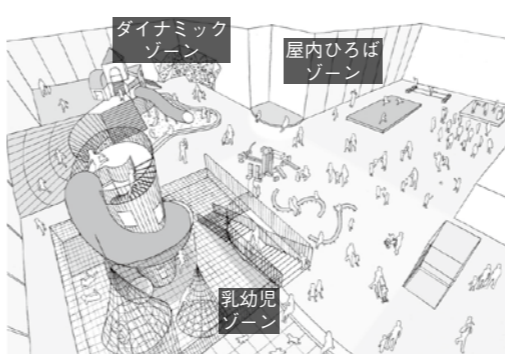
# 遊びの環境充実に向けて―(仮称)西公園屋内遊び場基本計画―策定

市では、こどもの遊びの環境を充実させるため、西公園への屋内遊び場の整備を進めています。このたび、保護者やこども向けのアンケート、仙台市子ども・子育て会議など各種審議会での協議などを踏まえ、3月に「(仮称)西公園屋内遊び場基本計画」を策定しました。

計画では「広がる遊びと、かぐやくこどもの未来―笑顔あふれる杜の都の遊び場」を基本理念に設定。施設のコンプレックスや機能、整備手法など、施設整備に関する基本的な事項を総合的に定め、広々とした平面空間で思い切り体を動かすことができる「屋内ひろばゾーン」や、立体的な空間で全身を使ったダイナミックな遊びができる



▲外観のイメージ



▲内観2階のイメージ

## 市政トピックス

### 連携で広がる泉中央の未来―まちづくりミーティング開催

泉区役所の建て替えを契機に進めている泉中央エリアの活性化の一環として、3月20日、やまいちサステナパーク七北田公園都市緑化ホールを会場に、泉中央エリアまちづくりミーティングを開催しました。

3回目となる今回は、昨年7月にエリアで活動する団体を中心に設立された「泉中央活性化ネットワーク(IKN)」のメンバーによるパネルディスカッションを実施。泉区役所、泉中央駅前、やまいちサステナパーク七北田公園をはじめ、文化・スポーツ施設などの各拠点が連携したイベントの実施や、IKNのロゴ作成によるブランディングの強化など、エリア内の回遊や滞在を促す仕掛けづくりについて意見が交わされました。来場者からも、まちづくりのビジョンを共有することの重要性について意見が寄せられるなど、会



▲パネリストたちが「連携による泉中央エリアのまちづくり」をテーマに話し合いました

見が交わされました。来場者からも、まちづくりのビジョンを共有することの重要性について意見が寄せられるなど、会

る「ダイナミックゾーン」など、伸び伸びと遊ぶことができるさまざまなゾーンを計画しています。こどもの健やかな成長を支えるとともに、多様な遊びや体験機会を創出することで、こどもたちを中心に、笑顔あふれる遊び場となるよう、着実に整備を進めていきます。

## 市政トピックス

### 防災・減災の未来を考える―仙台防災未来フォーラム

3月14日、仙台国際センターと仙臺緑彩館を会場に「仙台防災未来フォーラム2026」を開催しました。

今回は「東日本大震災から15年つなぐ想い、つむぐ未来」をテーマに、地域団体や大学、企業など過去最多となる延べ176団体が参加。防災に関する取り組みを発表するブース・ポスター展示のほか、発表やワークショップ、災害時に活躍する車両展示など、さまざまなプログラムが行われました。また、災害や防災について、お笑いコンビ・おかずクラブと一緒に考えるステージショーなども行われ

## 市政トピックス

### 東北の明るい未来―盛岡で東北絆まつりを開催します

場全体で泉中央の未来を考える一日となりました。市では引き続き、泉中央活性化ネットワークと連携し、泉中央エリアの回遊性向上と魅力創出に向けた取り組みを進めていきます。

東日本大震災で被災された方々の鎮魂と復興を願う「東北六魂祭」の後継イベント「東北絆まつり」の東北の県庁所在地6市が持ち回りで開催を続けており、令和6年からは2巡目に入りました。昨年は、大阪・関西万博に出演し、世界中からの支援に対する感謝や、復興を進め未来へ前進する東北の姿を発信。会場を大いに盛り上げました。

今年も、開催地を東北に戻し、5月23日・24日に、岩手県盛岡市で開催します。東北6市の祭りが集結し、本市からは仙台七夕まつりと仙台すずめ踊りが出演。活気あふれる東北の姿をお届けします。



▲令和6年に本市で開催した東北絆まつりの様子

れ、来場者は楽しみながら防災について学んでいました。東日本大震災から15年間の活動や記録を振り返りながら、これからの防災や環境について考えを深める機会となりました。



▲仙臺緑彩館では、震災から15年の歩みを振り返るパネル展示などが行われました

## 市政トピックス

### 文化と観光・政宗公を語る―仙台歴史文化観光シンポジウム

世界から選ばれた観光MICE都市を目指す本市の進むべき方向性について考えるとともに、伊達政宗公の新たな大河ドラマの実現を目指して、3月15日、仙台国際センターを会場に「仙台歴史文化観光シンポジウム―震災から15年政宗公に学ぶ仙台の未来」を開催しました。

第一部では、せんだいメディアテーク館長のロバートキャンベール氏と宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)館長で東北大名誉教授の平川新氏、郡市



▲シンポジウムには県内外から586人の方が来場し、登壇者の話に耳を傾けていました

長の3人が「災害の先にある文化と観光」をテーマに鼎談を実施。仙台と世界を結び付けるといった、被災地に人を呼び込む観光の視点や、歴史や文化、防災の取り組みを一つのストーリーとしてつなげて発信していくことの重要性などについて語り合いました。第二部では、平川氏による「慶長奥州津波からの復興と遣欧使節」と題した講演のほか、歌手・俳優のさとう宗幸氏、俳優・タレントの村井美樹氏、平川氏、「伊達政宗・仙台藩の大河ドラマを誘致する市民の会」会長の渡邊博之氏による「伊達政宗公を再び大河へ」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。政宗公の魅力や、昭和62年に大河ドラマ「独眼竜政宗」が放映された際の仙台の盛り上がり、大河ドラマの誘致が決定したらどんな政宗公を見たいかなど、さまざまな話題に及び、大河ドラマ実現への期待を新たにしました。

## 3.11 震災文庫を 読む

「復興を生きる 東日本大震災被災地からの声」



河北新報社編集局／編 岩波書店／刊

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

15年の節目にあらためて考える

河北新報社 記者 勅使河原 奨治

「原発漂流 福島第1事故10年」



河北新報社編集局／編 河北新報出版センター／刊

被災者に寄り添う取材を貫いてきた河北新報社が、発生10年の節目の年に総力取材した内容が一冊の本にまとまっています。震災を網羅的に学ぼうとする一般の人や、次の災害に備える行政職員、組織のリーダーらにとって多くの学びが得られるはずです。

家族を失った被災者や県災害対策本部で指揮を執った村井嘉浩知事、震災伝承、高台移転など、多角的視点から震災と復興を捉えています。南三陸町防災対策庁舎の被災ドキュメントは、圧巻の読み応えでした。

災害列島とも呼ばれる日本は、また必ず大震災が起きます。大震災の反省と教訓を次に生かすため、地元紙記者たちが足で集めた情報の結晶です。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585